

令和7年6月定例会 一般質問 吉田弘明議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。

「市政・議会に対する理事者の認識」

○吉田弘明 議長のご指名をいただきましたので、私吉田弘明の一般質問を始めさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

これから香芝のために、今までと違う立場ではありますけれども、しっかりとこの市政を支えていきたいと、そのように考えています。特に4月以降は、今までと違って、市民の皆様に耳を傾けて、時間を取り、様々な現場を確認することができたと、多くの時間を取れたということで、ある意味、その点においてはうれしく感じているところでございます。

市民のために全力で働くということを今申し上げましたけれども、まず理事者の公約というところでございます。今回は、理事者の市政に対する、議会に対する認識と、そして公約の進捗、その中で、また理事者が持たれてる矜持みたいなことも尋ねてまいりたいと思っております。決して上からではないことをまず冒頭に申し上げておきます。

理事者の公約というものはあるんですけれども、もちろん全てを守っていく、実現していくというのは非常に大事なことで、公約原理主義という言葉もあるぐらいですから、それをしっかりと守っていくというのは非常に大事。しかしながら、やっぱり一方で守り切れないところもあるのも認識しています。時に、今回もありましたが、土地であれば買収し切れなかったという問題もあるでしょうし、国の補助が採択されなかったということもあるでしょう。そんな中でも、昨年いろいろ公約を挙げられた中で、私がやろうとしていることもかなり重複していたこともありますから、やはりこれを進めるためには全力で、それに歩調を合わせて進めていきたいと、このように考えているわけであります。もちろん、意見を異にするところもあるわけですが、これも恐らくプライオリティーの問題であって、本来十分な予算があればやるであろうことであると私は思っています。ですから、これは理事者との合意も含めて、また一般質問でいろんな話をしながら、それは実現に向けてこれも取り組んでいきたいという所存です。

今、申し上げたのが、これ4年以降、もう既に4年切ってるわけですが、私がこの香芝のために、そして市民のために頑張っていきたいという意思決定というか、自分の所信表明でもあるわけであります。その上で、さきの選挙において約18名の方が立候補された。その中には、選挙活動あまりされない方もおられましたし、また私のように立場を変えて出てる人間もいた。初めて、初陣で、行政経験のない中で立たれた方もおられましたし、仕事を辞めて出馬された方もおられたということで、個々それぞれ背景、理由、突き動かしたものがあんじゃないかなと私は思っています。私自身もいろいろ意見をいただいた中で迷い、

本当に悩んだわけですがけれども、最後の最後は、やっぱりこのまちのために、もう一つは、それまで私を支えていただいた、またいろいろ要望いただいた、約束させていただいた方々への恩返しも含めて、最後はそこを突き上げることになったわけです。

そんなところではありますけども、少しでもこのまちをよくしたいと思う、その思いで皆さんも出馬されたと思っているわけですが、ここで理事者側にも問いたいわけです。これから市政の発展のために、もちろんかんかんがくがく議論、討論していくわけですが、理事者側の皆様方が私たち、また議会についてどのような見方をされているのか、どのようなお気持ちで今後進めていこうと思ってるのかと、その辺をぜひ伺うことを壇上からの質問として、この場での質問をまず終わらせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○市長 理事者側として、議員に対してどのような意識や姿勢を持って、議会の審議等に臨んでいるかというご質問だったかと思えます。

ご質問の趣旨が必ずしも明確ではないのですが、議会につきましては、日本国憲法第93条第1項及び地方自治法第89条第1項は、議事機関として規定し、執行機関である長と対等な立場で二元代表制の一翼を担う機関であり、議員については、その構成員で、憲法第93条第2項により、長とともに住民による直接選挙により選出されるものと認識しており、私を含め理事者については、地方自治法第121条第1項の規定に基づいて議会に出席し、臨んでいるものでございます。

私を含め理事者一同におきましては、議員はその一人一人が市民による直接選挙によって選出され、市民の負託を受けた代表者であることを認識し、その意見及び要望等への対応や市政に関する情報の提供の在り方については、決して特定の議員にのみ重きを置いたり特定の議員を軽んじたりすることのないよう、議員間に優劣をつけることなく、公正かつ公平に、全て誠意を持って対応することを旨としているところでございます。私自身におきましても、吉田議員とは政治家の先輩として、誠意を持って対応してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○吉田弘明 失礼いたしました。

市長自らお答えいただきましてありがとうございます。いつぞやの奈良市長選挙には応援の弁もさせていただいたというふうに記憶しております。

そんな中で、こうやって議員の立場についてご理解をいただいているというところはあるわけですが、一方で、市民の皆様からは、じゃあ同じように個々の議員がそのように思われているかといったらそうではなくて、やっぱりその中にはイデオロギーの問題、そして個々のキャリア、または過去の実績等、有権者の判断は異なっているわけです。私自身にとっては、それは時につらいこともあり、また精神的にも厳しい内容を叱咤激励と受けて、のみ込む必要があると思っておりますし、私自身も真摯に受けるところは受けないといけないというふうにも考えております。特に人格否定的な言葉も投げかけられるときもあるわ

けです。そんなときもやっぱりぐっところえて、頑張っていこうと思っているわけなんですけども。

ここで少し、ちょっと耳の痛い話をさせていただきますが、複数の市民から私に連絡がありました。このような文章がSNSで流れていると。聞いてください。前市長や前々市長が市議選に立候補するそうで、失笑を買っています。特に前市長の事務は驚くほどずさんで、民間企業では仕事が務まらない。それでも、まだお若いので、お金が欲しいのでしょうか。そこで思いつかれたのが市議会への再就職であるらしい。選挙が就職活動になってよいのでしょうかという文面です。この市民の方が非常に動揺されていて、さすがに、結構侮辱的なものであったり、これ提訴の可能性あるんじゃないかみたいな意見も直接私にはいただきました。これ市内の方と市外の方からいただいたところです。これが実はアカウントは香芝市長でした。これ糾弾という意味ではなくて、これについて話をいただいた方々への説明というか、そういったコメントというのはいただけないですか。どうですか。

○議長（筒井 寛） 吉田議員に申し上げます。通告されているものとして、通告されている質問を、通告書の趣旨に沿って質問をお願いいたします。それと、大変申し訳ございません、私も聞いていてそうでしたが、聞き取りにくいので、質問の趣旨を短く明確に、もう一度よろしく願いいたします。

○吉田弘明 市民から問合せがあった中で、先ほど、もう繰り返しません、SNSで流れていたものについて非常に困惑をされていました。この件について、アカウントが香芝市長であったことから、これが事実であるのかということと、もし事実であれば、これについて市民の不安を払拭できるようなご説明を賜りたいということでございます。

○市長 ご指摘の私が投稿したSNSの文章につきましては、おおむねそのとおりであったかと思えます。その時点におきまして私の政治的な見解を素直に発信をさせていただいたということで、何ら問題がないものと考えてございます。

以上でございます。

○吉田弘明 ありがとうございます。

一応そういう旨だということでありましたけれども、実際市民から聞いた中では、やはり市長という社会的地位を有する行政の長であられるわけでございますので、公共のネットの場で、一市民、いわゆる選挙に出られる前の方々に対してのそういったことについては、正式に発表した意見というふうに捉えてしまいましたというようなことがありますので、こういったものについてはもう少し慎重になられたらどうかというのが私の個人的なご意見でございますが、市長、いかがでしょうか。

○市長 ご忠告、感謝申し上げますね。ただ、私が何を発信しようと、表現の自由もございませし、政治的な見解は様々でございます。この場で市長選の延長をされるようなご質問はちょっと、市政の発展につながるものではございませんので、もうこれ以上は差し控えますけれども、ご忠告は承りました。

以上でございます。

○吉田弘明 ありがとうございます。

やはり足元をすくわれまいというか、痛くない腹はつつかれたくないと、そういうような思いで私もお話をさせていただいておりますので、今後そういったところについては十分お気をつけていただきたいというところと、あともう一つ、市長の、先ほど言った公平に、忠実に、公正にという話がございましたけれども、実は5月の末に手紙が来ました。これ職員からです。名前は書いていけませんので、あえてここで公表するつもりはありませんけれども。やはり組織をつくっていかれる上で様々な意見が出ているということもご承知おきいただきたいと思ひますし、昨日もありましたが、いろいろアンケートということもありました。様々な意見をお聞きになるということも非常に大事だと、そのように思ひますし、今回のSNSの件も職員には実は何名かに話しておりました。それは本来ならやはり市長のほうにそれが伝わっているはずじゃないのかなとは思っていたんですけども、もしも伝わっていれば、それはやはり風通しのいい組織だと思うし、伝わっていなければ、何らかももっともいろいろな話が自由闊達にできるような雰囲気もあってしかるべきかなというふうに感じましたので、この場で申し添えておきたいと思ひます。これからもよい市政を進めるために、今の持っていらっしゃる理念というか、思念というか、矜持というものを貫いていただきたいなど、このように思ひしております。

引き続き、議長、よろしいでしょうか。

○議長（筒井 寛） はい。

「公約の進捗（KPI）」

○吉田弘明 それでは、今回2つ目の通告をさせていただきました案件についてお話しさせていただきますと思ひます。

市長のいわゆる公約というか、その実効性、実現性、KPIについても問うてまいりたいと思ひしております。

日本の全国の様々な選挙、今も広陵町で行われてますけれども、全国で選挙活動があるわけですが、その中でも、おおむね安心・安全のまち、いつまでも住み続けたいまち、こどもまんなか、人に優しいまち、様々な案件があるわけですが、その上に香芝市とつけても通用するし、葛城市としても通用するようなことが多々あると考へます。いろいろな計画書を見ても、それが本当にそのまちのものかというのは、分かるときもありますが、8割、9割は全国どのまちも同じような内容になってるかと思ひます。それは、一緒になってるのが悪いという意味じゃなくて、その問題が全国津々浦々やはり共通であるということだと私は思ひます。おおむね同じような政策、施策があるわけですが、そこで香芝ならではのセールスポイントをどのように打ち出していくかなってのが非常に大事だと思ひます。いわゆる半歩先のサービスかなと。分かりやすく言えば、そんな感じだと思ひてます。

このまちでは人口がやや下がってきておりますが、やはり近畿地方にたくさんの方が転勤で来られたら、どうやってこの香芝のまちを選んでもらえるのか、結婚するときはこのまちを選んでもらうためにはどうしたらいいのか、出産をするときにはどうしたらいいのか、人生の岐路において、このまちを選んでもらえるポイントというのがあるかと思えます。そんなところのポイントについてどのようにしていくのかと、こんなことを中心に聞いていきたいと思うんですが、特に今回、市民の声を聞いた中で、やはり物価高というのが非常に緊急を要するなど、そのように考えましたので、質問させていただきます。

昨年から、地元なり市民の方々と話をしていますと、やはり物価高、圧倒的に多かったです。特に冬場でしたので、旧村では灯油なんていうところも出てまいりました。そして、公約の中に高齢者の買物補助など日常生活の支援策に力を入れるとありましたけれども、この令和6年度の施策、こういったもので主に何があったかをお聞かせください。

○市長公室次長 お答えいたします。

地方創生臨時交付金の推奨事業メニューを活用した事業といたしましては、三橋市長の就任後、令和6年度におきましては、第2子以降保育料無償化及び市立小・中学校新入生標準服無償化事業を実施しております。

以上でございます。

○吉田弘明 ある程度、世代は限られているのかなという印象を受けます。

政府発表ではインフレ率3%とか、そんな発表がありますけれども、実際のところは、ジャンルに限って言うと、かなり爆上がりしているところもあります。それも、景気が上がらないで、原料コスト、オイル関係、そして円安もあるんですけども。こういった物価高ですから、いわゆるスタグフレーションという、悪い物価の上がり方というふうに言えます。特に米価とエネルギーというところで絞っていくと、やはり今年の年末の一文字というのはもう米だと。トランプのペイと合わせるわけですけども。それぐらい、やはりお米の値段、こういったところに集中的に注目されているわけですけども。この場合、低所得者とか子育て、高齢者みたいところで考えると、どのような支援策がありますか。ちょっと重複したら割愛いただいて結構です。

○市長 先ほど市長公室次長から地方創生臨時交付金の推奨事業メニューを活用した事業について答弁いたしましたけれども、国から地方創生臨時交付金は必ずしも十分に交付されているわけではございませんので、あらゆる施策を実施することは困難でございますけれども。今後、これに並ぶ事業といたしまして、私の公約にあるとおり、買物や医療機関への受診の際に利用する公共交通の利用に対する経済的負担を軽減することを目的とした高齢者の交通費補助、あるいはコミュニティバス等の充実に向けての施策につきましても実施していく方針でございます。

また、低所得世帯につきましては、住民税非課税世帯給付金事業等の物価高騰対策につきまして、他市町村と同様に取り組んでいるほか、昨今における物価の変動を考慮いたしまして、本市からの各種補助金等の水準の見直し等も進めているところでございます。

以上でございます。

○吉田弘明 ありがとうございます。

今できる範囲の支援、補助も含めて、やっていただいているというふうに理解はしております。ただ一方、やっぱりお米というところに焦点を絞ると、国がいろいろ施策は打っていただいているんですけども、市民の生活、命というところ来说うと、なかなか米価の混乱というのは先が少し見えないと。実際、備蓄米が出回りつつありますけれども、現状、幾つかのデータで見ると、大体朝9時ぐらいにお店が開いて、お昼前後にはもう売り切れちゃうと。これもう長蛇の列ということですから、共働きの方々や高齢者の方々には到底購入できるものではないわけですけども。この点ちょっと難しいんですけども、この点について何か考えられる解決策みたいなものは市としてないのかどうか、意見があったら伺いたいと思います。

○市長公室次長 お答えいたします。

米の価格の安定に向けた施策といたしましては、小さな規模で地方自治体が取り組むべきものではございませんでして、国の施策として行うべきものであると考えております。

以上でございます。

○吉田弘明 今のお答えは少し、やっぱり香芝ならではというようなところ、このまちに住んでよかったというところでは、若干突き放された感があるわけですけども。

例えば、その交付金については使い勝手はいろいろあるかと思いますが、王寺町では物価高対策ということで、買物利用できる市販のギフト券、JCB券の2,000円を町民に6月上旬までに支給と。もう終わってるんでしょうかね。国の物価高対策の重点支援地方創生臨時交付金、これを活用してやっておりますと。町民のために、楽にもなるし、また経済も潤うじゃないかと、こんな目的でされていたりします。最近の情報では、大阪市は水道の無償化3か月を決め、補正予算化をした。東京都もそうらしいです。また、大阪市は19歳から22歳の若者対象に7,000円相当の米、食料の支給を計画し、今後議会に上げていくというようなところがありまして、全てが米対策ではないんですけども、安心して生活ができる、少し前の不安感をなくすというような点では見習っていいんじゃないかなと素直に私は考えるわけですけども。こういったことを見て、今後、秋に向けてでしょうか、そういった対策、可能性があるのかどうか、お答えいただけたらありがたいです。

○市長公室次長 お答えいたします。

議員のご質問は、恐らく他自治体で実施しているような商品券を配布する事業はないのかというような、そういう趣旨だと思いますので、その趣旨でご答弁させていただきます。

これまで本市における商品券などを配布する事業といたしましては、地方創生臨時交付金を活用し、令和5年度に事業費約2億2,977万9,000円で1人当たり2,500円のギフトカードを配布する事業を実施したことがございます。その際に、実際に市民に交付できた金額は1億9,650万円で、事業費の約85.5%でございました。残りの3,327万9,000円、事業費の約14.5%がこの事業を実施するための経費に費やしたという経緯がございます。なお、交付し

た金額のうち、実際に利用された金額は約1億8,182万円で、利用金額率といたしましては92.5%でございました。

三橋市長の基本的な方針といたしましては、このような場当たりの経費率が高く、市民に還元されない部分が多く生じてしまう非効率な方法での事業の実施は控えるべきであるというものでございまして、全市民や一定の広い世代を対象に、用途を限定しない形態での給付事業を実施する場合に備えて、必要なシステム等の基盤の整備を先行して行っていくべきであると考えております。今後の国からの財政支援の内容にも左右されますが、少なくとも現時点で商品券などを配布する事業を実施する予定はございません。

以上でございます。

○吉田弘明 今も商品券と、以前やった商品券のことを指していらっしゃると思いますが、先ほど例えてお話ししたのは何でも使えるギフト券でありますし、2,000円を配布するというものですし、あとお米を7,000円相当渡すという具体策ですから、ちょっと内容は意図するものだと思います。過去の2億円近くのを市民に配布したということで、その結果に基づく回答だと思いますが、今こういう時代で、現実に市民が不安感を持っておられるということですから、そのあたりはまたご検討願いたいと思います。

もう一個、お金がかからないやり方もあるんじゃないかなど。例えば政府が用意している2,000円前後の米を並ばずに、または我先にと行くのではなくて、香芝市民であれば一家に5キロ買える、並ばんでも買える10キロ、分かりませんが、こういった仕組みをつくる、これ一円もお金かからないと思うんですね。お金を出すのは市民なわけですから。ただ、その仕組みをつくってあげる。安心して、高齢者も、障害を持ってる方も、共働きで買いに行けない人も、自分の行けるときに、いつでもというわけにいかないんですけども、ある程度の時期を決めてやれるというようなやり方もあるんじゃないかなど。こういうことも含めて、今後、今喫緊の問題、国だけに任せ切るということも、分からないでもないんですけども、市民の声は本当に多いですよってことを理解いただきたいと思います。ここにいる方は、本的には一般市民の平均年収よりも数段多い方ばかりです。これ私も含めてですが。ですから、そういった方々の声ってのはもう少し踏み込んで理解する必要があるんじゃないかなというふうなことをお願いして、今の質問は終わりたいと思います。

次に、バスやタクシー、市内交通の充実を図って、状況に応じて交通費の助成を実施し、自家用車がなくても暮らせるまちづくりを目指しますとあるわけですが、これについても聞いてまいりたいというふうに思います。

これも、まちの高齢者、具体的に言うと82歳のおばあさんとお話しして、たった1人の話というふうに捉えていただかないで、現実的にこんな話があるんだということもお聞きいただいたらいいと思います。普通車から3年前に軽四に乗り換えて、もういよいよ80も超えたので軽四もしんどくなってきたなというのもあるんですけども、村のいきいきサロンというのがありまして、公民館で月に一度集まってコーヒーやお茶が飲める、そんな時間があるわけですが、そこにやはりぜひとも行きたいんだと。歩きやあやっぱり五、六百メー

トルあって、緩い坂道ですから大変なんだということで、すごくリアリズムのある悩みなんですけども、なかなか車が放せない。要は、車を放すと、手放すと、途端にやっぱり徒歩の毎日が待っていると。旧村がゆえにルートバスもそこにはない、またはデマンドも呼ぶレベルの距離じゃないみたいところで非常に困っていらっしゃるようなことがありました。

今のはちょっと前振りになってしまいましたけども、香芝市の地域公共交通については現状どういう状況かというのをまずお聞かせ願いたいと思います。

○議長（筒井 寛） はい、津本都市創造部長。

○都市創造部長 香芝市内の地域住民の日常生活及び社会生活における移動を支える地域公共交通は、鉄道交通のほか、本市東部及び北部において運行している路線バスと、それを補完する交通手段として香芝市コミュニティバスを運行しております。また、事前予約制の乗合公共交通として香芝市デマンド交通を運行しております。

以上でございます。

○吉田弘明 今のお話を聞きまして、コミュニティバス、デマンド交通、これも10年以上前にデマンドが導入され、コミュニティバスも以前は市役所までのワンウエー、一方通行の乗り物でありましたけれども、循環のバスに替わってきて、よりよく、経年の中で運行しているというようなことを認識いたしました。

そんな中で、今申されたコミュニティバス、この運行状況についてお聞かせください。

○都市創造部長 現在、市内において4台の車両により、6つのルートで運行しております。また、75か所のバス停留所を設置しております。令和6年度の利用者は累計4万6,278人でした。

以上でございます。

○吉田弘明 ありがとうございます。

これ、もともと4ルートであったと記憶していますが、この6ルートというのは新たにどういったところが追加されたのか、お聞かせください。

○都市創造部長 令和5年4月1日から、コミュニティバスのルートにつきましては、4ルートあったものを再編させていただき、6ルートとしております。ルートにつきましては、もともと真美ヶ丘ルートであった部分につきまして、真美ヶ丘ルートと祇園荘ルートに、白鳳台・旭ヶ丘ルートを白鳳台ルート、旭ヶ丘ルート、田尻ルートにつきましては名称変更で関屋ルート、ルート変更及び名称変更です。鎌田ルートにつきましては、現行も鎌田ルートで運行しております。

以上でございます。

○吉田弘明 ありがとうございます。

これ累計4万6,278となっておりますが、一番多いマックスの年度っていうのは大体どれぐらいだったか、記憶あればちょっと教えていただきたいんですが。

○都市創造部長 すいません。バスについては数字を持ち合わせてございません。申し訳ございません。

○吉田弘明 分かりました。

次に、デマンド交通ということなのですが、これについての運行状況を教えてください。

○都市創造部長 現在、市内において8台の車両により運行しております。令和6年度は計4万5,924回の利用があったものでございます。実利用者数としては2,525人でした。

以上でございます。

○吉田弘明 これもちょっと伺いたいんですが、デマンドの一番よかった利用数の年度、そして乗合率というんですか、ここも現状と一番よかったときの人数というのはどれぐらいでしょうか。

○都市創造部長 デマンド交通におきまして、平成30年度の利用者人数ですけども、このときが最大なんですけど、4万7,124人、乗合率につきましては、平成30年度が1.3721875、平成29年度が一番多くて、1.3741667でございました。

以上でございます。

○吉田弘明 いずれにしろ、乗合率というのはあまり変わってないというようなことが言えるのかなというふうに感じました。

現在、コミバス、デマンドの運行について、市民からの苦情というか、提案というか、意見があるのであれば、その辺を少し教えてください。

○都市創造部長 地域公共交通に関しましては、市民の皆様から様々なご意見が寄せられております。コミュニティバスにつきましては、「運転本数を増やしてほしい」、「運行時間帯を拡大してほしい」、「路線をさらに工夫してほしい」というようなご意見が寄せられております。また、デマンド交通につきましては、「予約しようとしても予約が取れない」、「予約をしなくても利用できるようにしてほしい」、「運賃は民間業者と同じ水準でも構わないので、時間帯の限定されないタクシー運行してほしい」というようなご意見が寄せられております。

以上でございます。

○吉田弘明 私の覚えてる範囲では、あまりこのクレームの内容というのは変わっていないかなというふうな気がいたします。

今、新たな市政が始まって1年たつわけですけども、このコミュニティバス及びデマンド交通の運行についてどのような課題があるのかというところを少しお聞かせください。

○都市創造部長 コミュニティバスにつきましては、現在の車両台数で可能な限り利便性が向上するように、路線の設定や停留所の配置等において工夫をしてきたところですが、利用される方が定着してきた一方で、乗車を希望する方が多く、乗り切れない場合が発生するなどしており、運転本数の増加等のさらなる充実を求めるご意見やご要望にどのように応えていくか。また、令和7年度から予定しているスクールバスは、令和8年度から検討している香芝市スポーツ公園に係るシャトルバスの役割について、コミュニティバスに統合して事業を効率化していくこともできないかということが課題でございます。

また、デマンド交通については、稼働率が高いものの、利用し慣れた方に利用が極端に偏ってしまい、予約が取りにくい状況をいかに解消していくかということや、特に運行時間帯以外の時間帯におけるタクシーサービスが提供される環境をいかに整えていくかといったことなどが課題であるというふうに考えております。

以上でございます。

○吉田弘明 ありがとうございます。

今、コミュニティバスは一日券200円ということで、さらにデマンドも200円ということで、もう価格は変わらないよというところで、この辺の値段的な問題というか、利用する側の選択が非常に曖昧になりつつあるような気もするんですが、このあたりの考えというのが何かおありだったらちょっと聞かせてください。

○都市創造部長 今、議員おっしゃっていただいたところにつきましては、やはり課題というふうに考えておりますね。今後どうしていくかというのが大きな問題であるというふうに考えております。

以上でございます。

○吉田弘明 そうですね。あまりにも値段がもう近くなっていますので、受益者の負担というか、その辺の考え方もちょっと変えていかないといけないのかなという感じはいたします。

今、デマンド交通はタクシー事業者に委託しているわけですが、車両をもう少しコンパクト、大きくはなくてもいいんですけども、ジャンボタクシーぐらいの形に変えると、もう少し乗合率も上がってくるんじゃないのかなとか、利用しやすいんじゃないのかなという気はするんですが、そういった検討はされておりますか。

○都市創造部長 本市のデマンド交通は、道路運送法の規定による乗合旅客運送事業者の許可を受けているタクシー事業者に委託しております。使用車両は事業者の所有でございます。現在の委託事業者はセダンタイプのタクシー車両を使用しており、ジャンボタクシー車両を使用する予定はございません。

なお、利用者の自宅付近の乗降場所を設定する際は、セダンタイプの車両で運行が可能な場所を選定しているため、ジャンボタクシーでは進入できない箇所などもございます。ジャンボタクシーの活用にあたっては乗降場所の見直しを伴うため、現在は検討しておりません。

あ、それと、1つだけ。

○都市創造部長 先ほど議員、バス200円とおっしゃってたんです。運賃100円でございますね。

以上です。

○吉田弘明 説明不足でしたね。一日券が200円ですね。はい。ですから、バスは大体、行ったら必ず帰ってくるので、おのずと200円になるのかなという思いで、一日券200円と申し上げました。失礼いたしました。

それで、一番最初の話に戻るわけですが、運転免許を返納したいという80を超えたおばあさんがいよいよ放すとなると非常に不安がってらっしゃって、本当にたちまち、もう歩くのかと。それ歩くのはいいんだけど、買物をして、それこそ重たいお米だったり、何だかんだ、要は配達サービスもあるんですけども、日々毎日いろいろな物を持って帰る、その辺も非常に不安がっていらっしゃいます。この免許を返納される方についてのサービスというか、市の考え方というのはどういうものがあるのでしょうか。

○都市創造部長 運転免許証の返納者を対象に、運転経歴証明書交付手数料補助金の交付と香芝市コミュニティバスが1年間乗車無料となる乗車券を交付しております。

以上でございます。

○吉田弘明 以前から、そこまで大きく変わってないかなというふうな気がいたします。

運転免許を返納した方がすぐに公共交通を使えるのかというところも当然あるんですけども、この支援というのは当該担当部局として十分だというふうに認識されているのでしょうか。

○都市創造部長 運転免許証を返納した方がすぐに地域公共交通を移動する手段として選択される状況に移行することは難しいというふうに考えております。これを解消する方法としては、例えば高齢者の方などを対象として地域公共交通を実際に利用する体験会を開催するなどといった取組も効果的ではないかと考えております。

また、買物や医療機関への受診の際に利用する公共交通の利用に対する経済的負担を軽減することを目的として、高齢者の交通費補助についても実施していく方針であることも考えてございます。

以上でございます。

○吉田弘明 ありがとうございます。

先ほどの一般質問でもありましたけども、単身の高齢者、いわゆる独居老人の推定人数は大体1,600人強というお話がございました。ですから、こういった方々が全員免許を持つてるとは思いませんが、この方々が返納すれば、やっぱり身寄りがないというか、あまり即座に頼れる方もいらっしゃらないということですから、今無料で使えるような、1年間サービスとしているというような意見もございましたけれども、この辺はもう少し深刻に捉える必要もあるのかなというふうに対面レベルでは感じているというところをお伝えしておきたいと思います。

そして、いわゆるラストワンマイルというか、実際にはワンマイルではなくて、実際には本当に300メートルや500メートルというようなところだと思うんですけども、ドア・トゥ・ドアの対策が必要であると思いますが、その辺はどのようにお考えにあるか、お聞かせください。

○都市創造部長 自宅から最終の目的地までの移動手段を地域公共交通において確保することは重要でございますが、全ての市民を対象として、全ての移動手段を行政で担うことは不可能であるというふうに考えております。「誰の」、「どんな移動を」、「誰が支えるのか」

を明確にして、地域公共交通のネットワークを維持していく必要があると考えております。
以上でございます。

○吉田弘明 ありがとうございます。

こういった単独の高齢者が住まわられてるのは、実際コミバスがルート化されてない、いわゆる旧村のところ、細い道で入っていけないところにもたくさんおられるんじゃないかなというような気がいたします。

なぜここまで言ってるかという、今現在、日本全国、健康寿命と言われてるのは、男性が81.09、女性が87.14と、2024年のデータでありますけれども、本当に65歳ぐらいから、この残りの十五、六年、女性で言うとも20年近くあるわけですけども、このタイミングで本当に自立をして、そして自ら買物したり、友達と遊んだり、いつまでも元気な高齢者でおられるためにも、免許が返納されるこの80前後、戸惑っていらっしゃる方々に対して、階段が高いものではなくて、優しいスロープであってほしいなという思いで今こういった説明をさせていただきます。

まだまだお若い市長でありますけれども、こういった高齢者の本当に切実な現実があるわけですけども、このあたりのお気持ちをちょっと、今後をお聞かせ願えたらと思います。

○市長 高齢者の移動手段の確保というのは極めて重要でございます。本市におきましては、一定程度地域公共交通を運用することによって補完しているところではございますけれども、今後、議員お述べのとおり、運転免許証を返納する高齢者の数がさらに増えていくことが予想、見込まれますので、こういったところにつきましては、より一層危機感を持って、地域における交通環境の整備というところも、民間事業者も含めまして、改善していくべきであるというふうに考えてございます。

以上でございます。

○吉田弘明 ありがとうございます。

全国的には、いわゆる団塊の世代と言われるところがもう後期高齢に入っ、いよいよというところで、こういった方々がたくさん出てくる可能性があります。香芝市においても、今申されたとおり、先をにらみながら先手を打って、来るべき対応をしていただくことを切にお願い申し上げたいと思います。

本日は、いろいろ失礼な質問も含めていただきましたけれども、真摯にお答えいただきましたこと感謝申し上げます、私の一般質問をこれで終わります。ありがとうございました。